

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (マネジメント)	氏名	橋 上 徹
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論 文 題 目			
<p>連結範囲規制を巡る諸課題と探究 ー連結範囲規制の網羅性欠如への対応を中心としてー</p>			
論文審査担当者			
主 査	教 授	星 野 一 郎	印
審査委員	教 授	林 幸 一	印
審査委員	教 授	盧 濤	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、そのタイトルのとおり、連結範囲規制をめぐる諸課題と探究という壮大な研究テーマである。そのなかでも、連結範囲規制の網羅性欠如とそれへの対応策を中心に議論したものである。それにしても、そこにおける規制逃れには、多種多様な形態の法人が複数にわたり活用（悪用）される特性がある。本論文はそれらの一部の法人や制度を会計学的かつ法律的そして制度的に考察したものである。</p> <p>論文の審査については、とくに連結範囲規制そのものの制度的な特性と課題、そこにおける網羅性の意義と課題、東芝事件やオリンパス事件の内容と意義そして本論文における位置づけ、タックス・ヘイブンの形態と内容、一般社団法人や一般財団法人などをめぐる制度的問題などを中心とした試験をおこなった。その際、技術的な手法等についての内容よりも、学術的なオリジナリティーや論理的一貫性などを中心とした審査を実施した。</p> <p>これらの論点と課題に対して、本論文は、丹念な制度調査を法律あるいは判例からおこなっており、連結範囲規制をめぐる制度的な特性と変遷を踏まえ、連結範囲規制の網羅性を丹念に調査研究している。またこうした会計技術的な問題を時代的または社会的な環境との関係をも含めて論述した点は、そうした環境的要因をも加味した論述は高く評価できるものである。</p> <p>このような点から、本論文の会計学における水準は評価できるものと、論文審査担当者は一致して判断した。</p> <p>以上、審査の結果、本論文の著者は博士（マネジメント）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。</p>			
備考 要旨は、1,500字以内とする。			